

令和４年度 第２回日本遺産「桑都物語」推進協議会 総会

令和５年１月３１日（火）１４：００～１５：０５ 議会棟４階第３・第４委員会室

出席人数 ２３名

※特記のない限り、本会の名称は「協議会」と表記する。

開会前挨拶

【事務局】

- ・本年もよろしくお願いします。
- ・協議会名誉会長、石森市長より挨拶申し上げる。

【名誉会長】

- ・御多用の中、今年度第２回協議会総会に御出席いただき感謝する。
- ・新型コロナウイルス感染症は収束していないが、昨年秋ごろから市内では様々なイベントが再開され始め、市民の交流・賑わいがコロナ禍以前に戻りつつある。
- ・昨年秋には多摩地域で最大規模の展示室を備える「東京たま未来メッセ」、本市の伝統文化を発信する拠点「桑都テラス」がオープンした。
- ・今年４月には本市が長年計画を進めてきた「八王子駅南口集いの拠点整備」が本格化する。
- ・古典芸能「文楽」に使用された木造舞台が公益社団法人日本財団より本市に譲渡された。これは「集いの拠点」に設置を予定している。完成の暁にはこの舞台をできる限り利用しながら八王子車人形など八王子の伝統文化を発信していきたい。
- ・１１月４・５日には、本市を含む１０４の日本遺産認定団体が一堂に会する「日本遺産フェスティバル in 桑都・八王子」がいよいよ開催される。
- ・機運醸成に向けてすでにさまざまなイベント・PR活動を進めている。大変大きなイベントとなる。皆様には御支援、御協力をお願いする。

人事等紹介

【事務局】

- ・会議資料確認
- ・人事異動に伴う委員の変更について、公益社団法人八王子観光コンベンション協会からは加藤委員が、一般社団法人八王子青年会議所からは佐藤委員が就任した。各委員より、挨拶願う。

【委員】

- ・公益社団法人八王子観光コンベンション協会の会長を務めている。
- ・昨年 6 月、日本遺産「桑都物語」推進協議会の大野会長の後任を引き受けることとなった。
- ・就任から半年程度の経験ではあるが、日本遺産に関しては本協議会として役割とウェイトの重さをしっかりと認識し、臨んでいきたい。よろしくお願いします。

【委員】

- ・令和 5 年 1 月より、一般社団法人八王子青年会議所の理事長となった。
- ・私自身、同会議所では高尾山の事業を主に担当している。
- ・これから一年間、良い年になるよう頑張っ参りたい。よろしくお願いします。

総会開会

【事務局】

- ・総会の議事進行を会長にお願いします。

【会長】

- ・お忙しい中、参集いただき感謝する。

総会の成立について

【会長】

- ・委員の出席について、公益財団法人八王子市学園都市文化ふれあい財団の村松委員、多摩信用金庫の高橋委員、八王子市市民活動推進部の小山委員が欠席だが、各々代理出席となり、現時点で 23 名の出席。過半数となるので、本会は有効に成立する。
- ・本会議は記録のため録音し、無記名の要点記録を後日公表することを御了承願う。

議事

【会長】

- ・次第のとおり本会では報告事項 3 件、協議事項 3 件。
- ・協議事項の一つは、石森市長が冒頭話した「日本遺産フェスティバル in 桑都・八王子」の開催についてである。皆様からの活発な御意見をぜひ頂戴したい。

報告事項（1） 令和 4 年度日本遺産推進事業の進捗について

【会長】

- ・報告事項（1）について事務局から説明願う。

【事務局】

- ・令和4年度日本遺産推進事業の進捗について、人材育成、普及啓発、調査研究、活用整備、情報コンテンツ作成等のうち、主なものを報告する。

① 人材育成事業

- ・継続事業である日本遺産ガイド養成講座。参加者には、令和4年11月～令和5年1月にかけて関係者の御協力を得ながら個人では経験できない体験をしていただいた。本協議会では、これはそれぞれの財産となったと考えている。

② 普及啓発事業

- ・日本遺産 PR 部。「日本遺産フェスティバル in 関門」「第43回八王子いちよう祭り」のほか、「イトーヨーカドー」「桑都日本遺産センター 八王子博物館（はちはく）」において、日本遺産の魅力を発信する活動を行った。
- ・桑都八王子の花街の魅力向上。八王子の花街の魅力を向上させるとともに日本遺産の魅力について普及啓発するイベント「桑都花街物語 八王子芸妓がお出迎え」を開催。今年度は「まちなか休憩所 八王子宿」のほか、昨年オープンした「桑都テラス」や「東京たま未来メッセ」でも八王子芸妓衆が活動を行った。
- ・八王子「桑都物語」日本遺産ウォーク。歴史古道研究家の宮田太郎氏の案内により、桑都・八王子に残る古街道と日本遺産のつながりを参加者に体感いただいた。1月に実施した最終回では、地元の魅力を家族や友人と改めて認識するために、参加者をコース近隣の住人に限定した「フットパス」という手法を取り入れて実施した。
- ・「第43回八王子いちよう祭り」における普及啓発事業。当日は雨天により、八王子芸妓衆・説経浄瑠璃による実演が中止となった。日本遺産 PR 部「武者所」によるパフォーマンスや、(五代目) 西川古柳による八王子車人形の実演の場を提供することができた。
- ・日本遺産のイベント。「日本遺産フェスティバル in 桑都・八王子」の開催に向けて、日本遺産フェスティバルの普及啓発、産学官の連携、日本遺産認定地域間の広域連携の取組による日本遺産の魅力向上を図っていく。1月28日～2月12日にかけて、高尾駒木野庭園で「人と地域の交流×桑都物語」と題したイベントを実施している。テキスタイル産地ネットワーク展では、日本各地の織物産業の取組や成果を紹介するパネル展を開催している。2月18日・19日には会場を高尾駒木野庭園、タカオネとし、日本遺産認定地域の物産の販売やショップを開催する。
- ・構成文化財保持者による実演。市内イベントにおいて、八王子車人形や木遣の活動展示を行い、日本遺産認定ストーリーや日本遺産構成文化財の伝統芸能の普及啓発を図った。10月22日の「わくわくフェア」では八王子消防記念会による木遣の実演が、11月20日の「第43回八王子いちよう祭り」及び1月28日の「千百年を紡ぐ八王子織物展」では八王子車人形の実演が披露された。
- ・サイクリングマップを活用した日本遺産普及啓発事業。八王子観光 PR 特使のチャーリ

一磯崎氏と連携し、日本遺産「桑都物語」ポータルサイトに公開中のサイクリングマップを活用。マップに掲載しているコースやその周辺においてサイクリングを通じた日本遺産のプロモーションを展開している。

③ 調査研究事業

- ・マーケティング調査。9月～2月にかけて日本遺産の活用に向けて実施。日本国内の幅広い年代を対象に、新聞・雑誌・HP・SNS等を活用して日本遺産構成文化財等のイメージ調査、観光ニーズについての調査分析を行っている。サンプル数は600以上。
- ・桑都の音に関する調査研究。市内にスタジオを構え、自作した楽器や世界各地で出会った素材から音を見つけ、ソロのパフォーマンスや楽曲提供を行っている永井朋夫氏による協力のもと、日本遺産認定ストーリーや日本遺産構成文化財の周辺環境である「桑都・八王子の“音”」に着目。五感で親しむ桑都の魅力を探る調査研究を実施している。桑都・八王子の音を記録・資料化し、日本遺産「桑都物語」の普及啓発や情報発信のために活用する音源の制作につなげていく。

④ 活用整備事業

- ・日本遺産認定ストーリーや日本遺産構成文化財を紹介する説明看板等を製作し、設置する。令和4年度は構成文化財「八王子神社」「八王子の獅子舞」「小泉家屋敷」の案内看板等の製作・設置を進めている。

⑤ 情報コンテンツ作成事業

- ・日本遺産「桑都物語」ポータルサイトの多言語化。既存のウェブサイトを活用し、英語版の構築を進めている。

(以下、プロジェクターでのプロモーション活動紹介)

- ・その他、プロモーション。特に、野村證券株式会社八王子支店の申し出によるPRを実施。昨日、ディスプレイが完成した。今後は駅伝大会もあり目立つところに位置することからかなりのPR効果が期待できると考えている。ディスプレイのデザインについては、「日本遺産フェスティバル in 桑都・八王子」告知用大型パネル、日本遺産認定ストーリーイメージポスター・解説パネルなどを制作した。内容については同じものを展示し続けるのではなく、都度変更させながらPRしていきたい。今後、協議会の皆様においても、協力できることがあればぜひお願いしたい。

(質疑なし)

【会長】

- ・昨年はコロナ禍ではあったが、特に秋以降はイベントの実施が盛んとなり、市内にも賑わいが多少戻った。「桑都テラス」や「東京たま未来メッセ」のオープンも重なり、活気づいた。ぜひこの勢いを11月の「日本遺産フェスティバル in 桑都・八王子」につなげ、八王子市全体を盛り上げていきたい。

- ・1月28日・29日に「東京たま未来メッセ」で、「千百年を紡ぐ八王子織物展」が開催された。八王子織物工業組合の榎崎理事長に本イベントについて一言願います。

【委員】

- ・「千百年を紡ぐ八王子織物展」が開催された。日本遺産のコーナーを設け、仏像、兜など各日本遺産認定地域の品を一般の方に見ていただいた。大分好評であった。
- ・八王子車人形や、八王子芸妓のステージも行った。これも大分観客が多く好評であった。
- ・「日本遺産フェスティバル in 桑都・八王子」が開催予定だが、ぜひ盛会裏に終わればと思う。

報告事項（2）「公共交通機関を活用した日本遺産体験周遊ツーリズム事業」について

【会長】

- ・報告事項（2）について事務局から説明願う。

【事務局】

- ・本事業は、公募により採択されたもので、日本遺産の構成文化財を観光コンテンツとして活用し、物語（ストーリー）に沿って効率良く周遊できる仕組み・モデルルートを構築するもの。
- ・周遊に関しては、路線バスや鉄道、タクシー、シェアサイクル等、複数の地域交通事業者と連携し地域全体での観光振興を図る。
- ・令和4年度と令和5年度の2か年の事業となっており、公益社団法人日本観光振興協会から1,200万円の支援を受けて実施する。支援終了以降は、最終的には構築した仕組み・モデルルートは商品化し、地域全体が連携し、自走して観光振興を図ることができる環境を整えることを目標としている。
- ・令和4年度は有識者会議を実施し、モデルコースの素案を策定。これをもとに、令和5年度はモデルコースを策定し、地域交通事業者と連携した周遊パスを製作する。モニターツアーも実施し、令和6年度以降、事業の自走化に向けた体制を整えていく。
- ・本市の課題を解消すべく、市内全体に誘客を促す観光コンテンツを磨きあげていきたいと考えている。本市で開催される「日本遺産フェスティバル in 桑都・八王子」と本事業を連携させ地域の活性化と日本遺産事業の推進に寄与することを目指す。

（質疑なし）

【会長】

- ・これまでも、高尾山から市内全体に誘客を促すことは大きな課題となっていたが、日本遺産の構成文化財を軸に、ストーリーやテーマで周遊していただける工夫と来訪者にとって分かりやすい仕組みが必要かと思う。よく検討して、地域の活性化や「日本遺産フェスティバル in 桑都・八王子」につなげていってもらいたい。

- ・ 昨年の秋以降、「東京たま未来メッセ」「桑都テラス」がオープンした。こちらにも観光客を呼び込めるよう、取り組みを進めてほしい。

報告事項（３） 「日本遺産の日」イベントについて

【会長】

- ・ 報告事項（３）について事務局から説明願う。

【事務局】

- ・ 「日本遺産フェスティバル in 桑都・八王子」に向けた機運醸成を図るため、「日本遺産の日（２月１３日）」に合わせて「桑都日本遺産センター 八王子博物館（はちはく）」で実施する展示及びイベントについて報告する。

展示について

「２月１３日は『日本遺産の日』日本遺産特別展示」と題して、日本遺産の概要や日本遺産の取組、近隣地域の日本遺産の紹介などを写真や映像などを用いて行う。開催期間は、２月４日～２月２８日を予定している。

イベントについて

２月１１日午後１時～２時３０分に、「桑都花街物語 in はちはく」として、八王子芸妓の舞を披露する。また、２月１３日には日本遺産 PR 部による寸劇＆ワークショップを開催する。ワークショップは八王子城跡で発掘され NHK でも取り上げられた「まきびし」製作を実施する。

- ・ 本協議会は、文化庁主催の「日本遺産の日」記念シンポジウム等へ参加する。
- ・ 自由民主党 政務調査会が事務局を務める「第５回日本遺産推進フォーラム」が２月１０日に開催される。
- ・ これらの場において、「日本遺産フェスティバル in 桑都・八王子」の開催を PR する。（質疑なし）

【会長】

- ・ 「日本遺産フェスティバル in 桑都・八王子」に向けた機運を醸成するため、市内各所で行われるイベントについても「日本遺産」を冠にするなど各々で情報発信を強めていってもらいたい。
- ・ 事務局においても、本イベントを活用して、力強い PR を期待している。

協議事項（１） 「令和５年度事業計画（案）」について

【会長】

- ・ 協議事項（１）について事務局から説明願う。

【事務局】

- ・ 日本遺産の推進事業は、申請時に文化庁に示した「地域活性化計画」に基づき、認定後３

年間は国の補助金を活用し事業を進めてきた。ここで、認定後3年が経過することから、令和5年度より市の財源を充当して事業を進めていくことになる。

- ・令和5年度は、「日本遺産フェスティバル in 桑都・八王子」の開催が決定していることから、一定の開催経費は確保する見込み。予算については、今後も一定程度行政としても確保していくよう努力していくが、事業を持続的・継続的に行っていくために、財源の確保についても工夫が必要と考えている。予算規模は、現在要求中のものであり決定した額ではないため御留意願う。

【会長】

- ・令和4年度までで国庫補助事業は終了となるが、具体的な事業を立案し、次回の総会では予算案として議案にし、協議会へお諮りしたい。
 - ・今後の取り組みや財源確保などについて御質疑、御意見等のほか、各団体で自ら実施したいと考えていることがあれば提案いただきたい。
- (質疑なし)

協議事項(2) 「日本遺産フェスティバル in 桑都・八王子」について

【会長】

- ・協議事項(2)について事務局から説明願う。

【事務局】

「日本遺産フェスティバル」について

「日本遺産フェスティバル」は、日本遺産認定を受けた団体等が関係省庁と連携し、日本全国に点在するストーリーを国内外に向けて積極的に情報発信することによる地域及び日本のブランド力の向上を目的として、認定団体等が一堂に会し、情報発信や普及啓発を行うために毎年開催しているイベント。主催は、文化庁・開催自治体・日本遺産連盟で、観光庁が共催となる。

「日本遺産フェスティバル in 関門」について

「日本遺産フェスティバル in 関門」は、昨年10月29・30日に山口県下関市・福岡県北九州市で開催された。PRブースへの出展や、公開講座における本市の人材育成の取組について発表したほか、日本遺産連盟総会へ出席した。事務局のほか、石森市長、駒沢副市長、安間教育長、公益社団法人八王子観光コンベンション協会の担当者、日本遺産PR隊も参加し、また、八王子織物工業組合の理事長はじめ4名が視察にお越しいただいた。

(以下、プロジェクターでこれまでの日本遺産サミット(フェスティバル)の模様を紹介)

- ・11月の本市における「日本遺産フェスティバル in 桑都・八王子」をもっと身近に感じてもらうために、これまで開催されたサミットの様子をまとめたものをスライドで紹介する。

- ・本市が日本遺産に認定されて３年が経つが、それ以前のようにも HP 掲載資料等も引用しながら紹介する。
- ・2016 年開催の「日本遺産サミット in 岐阜」。各認定地域がブースを出展して地域をアピールしていることがわかる。コロナ禍前であるため、現在より少し賑わっているように見える。
- ・2017 年開催の「日本遺産サミット in 京都」。ブースが縦長になっており、広く見える。こういう見せ方をしている年もあった。
- ・2018 年開催の「日本遺産サミット in 高岡」。PR ブースを同じような形で展開している。本市でも子どもたちを前面に押し出すことを考えているが、子どもや親子連れが来ることでフェスティバルとして盛り上がるのではないかと思う。
- ・2019 年開催の「日本遺産サミット in 高知」。アーケードを利用して、PR を展開。
- ・2020 年開催の「日本遺産フェスティバル in 今治」。八王子のブースでは京王観光株式会社の担当職員に半纏を着用してもらい、ブースを盛り上げてもらった。
- ・2021 年開催の「日本遺産サミット in 小松」。本市では昨年同様半纏を着用して PR を行ったことが特徴的である。日本遺産 PR 部にも会場を盛り上げてもらった。「日本遺産サミット in 小松」から分科会が始まり、本市は織物分科会に参加した。この取組は「日本遺産フェスティバル in 関門」「日本遺産フェスティバル in 桑都・八王子」でも継続して実施する。小松の総会では、木内副市長に挨拶いただいた。
- ・2022 年開催の「日本遺産フェスティバル in 関門」。芸能人が呼ばれたことも合わせて紹介する。それぞれの認定自治体も同様、年々経験を重ねることで PR が上手くなりブースが盛り沢山になるように感じられる。自治体によって取り組む内容に温度差があることもあるが、本市は段々と色々なものが増えてきてブースが充実してきている。京王観光株式会社の御協力を得ていただきながら日本遺産を PR している。会場の特設ステージでは、バナナの叩き売りを実施。子どもたちが多かったように思う。総会では、石森市長に「日本遺産フェスティバル in 桑都・八王子」の開催決定について挨拶いただいた。情報交換会では、「日本遺産フェスティバル in 桑都・八王子」の告知カードや桑都クッキーを机上に置かせていただいた。また、駒沢副市長と安間教育長には決意表明を行っていただき、大変盛り上がった。他の自治体からは、理事者がこれだけやる気をもってもらえるといいよね、という声を聞いた。協議会としても誇らしく思う。
- ・「東京たま未来メッセ」の会場風景。来年度はここを舞台にフェスティバルを開催する。
- ・実際に会場に行ったことがある方はその温度感が分かるかと思うが、皆様に臨場感を味わってもらえたらと思い、プロジェクターを活用して紹介をした。ぜひ、本市としても盛り上げていきたいため皆様にも御協力お願いする。

日本遺産フェスティバル in 桑都・八王子の企画（案）について

内容は現時点での事務局案であり、未調整のものも含まれるため御留意願う。

- ・テーマは、「桑都・八王子から、104 の物語(ストーリー)を未来へ」。
- ・全国 47 都道府県に点在する日本遺産ストーリーを国内外に向けて積極的に情報発信することにより、日本遺産制度の価値や地域及び日本のブランド力を向上させることを目的として、全国から 104 の日本遺産認定団体が一堂に会し、相互に事例研究や情報交換を行う機会とする。
- ・相互に連携して日本遺産の魅力発信・普及啓発を行う機会として開催する。
- ・関係者だけでなく、市民や来訪者も一緒になって楽しむことができるよう、イベントの名称を「フェスティバル」とする。
- ・期日は、令和 5 年 11 月 4 日・5 日とし、3 日（文化の日）は前夜祭を開催する予定。
- ・メイン会場を東京たま未来メッセとし、会場準備から撤収まで、具体的には令和 5 年 11 月 1 日～6 日まで、会場全館を押さえている。また、サテライト会場の候補地として、「高尾山清滝駅周辺」「高尾 599 ミュージアム」「桑都日本遺産センター 八王子博物館（はちはく）」「八王子城跡ガイダンス施設」「絹の道資料館」「多摩織工芸館（八王子織物工業組合）」「桑都テラス」などを想定している。
- ・その他、同時期に開催する市内のイベントを同日開催とするなど、各イベント主催者と連携して中心市街地を盛り上げるとともに、市内博物館・美術館等での関連展示等との相互連携により、日本遺産フェスティバルを中心とした魅力発信を行うことで、日本遺産のさらなる普及啓発を図る。
- ・前夜祭（宵宮）は、11 月 3 日の夕刻から夜にかけて、「桑都テラス」でのイベント開催を想定している。
- ・オープニングセレモニーとシンポジウムについては、ライブ配信も実施したいと考えている。オープニング・アトラクションは内容を検討している段階。
- ・オープニングセレモニー・開会宣言については、八王子市長、文化庁長官による主催者の挨拶のあと、日本遺産・文化観光の専門家による基調講演を予定している。多摩美術大学理事長で元文化庁長官の青柳正規氏を候補に話を進めている。また、その流れでパネルディスカッションを開催したいと考えているが、コーディネーターとして観光未来プランナーの丁野朗氏、コメンテーターとして青柳正規氏を軸に検討している。また、午後の時間帯には、日本遺産フェスティバル開催記念特別座談会として、八王子ゆかりのテキスタイルデザイナーや職人による座談会、学生を中心としたイベントを検討している。
- ・日本遺産 PR 展示や体験ブースを設ける。地域性（ブロック制度）やテーマ性を意識したブース配置としたいと考えている。
- ・日本遺産ミニシンポジウムについては、小松から始まった分科会を継承し、テーマごと議論を深めていく。現在、テーマの候補として、繊維（織・染）文化、修験・山岳信仰の文化、日本遺産を生かしたまちづくり、食文化を考えている。
- ・日本遺産公開講座(PR タイム)について。各出展団体が取組や当日の展示について PR す

る場を設けたいと考えている。また、日本遺産公開講座として、発表やワークショップの場も設けたいと考えている。「子どもや学生による活用事例」「他地域との連携事例」といったテーマ設定のうえ、各協議会から発表団体を募り、興味深い、集客を期待できるプログラムを企画していく。あわせて、八王子の小中学校における取組（郷土学習、学校給食他）を発表したいと考えている。

- ・日本遺産連盟総会／情報交換会（懇親会）について。京王プラザホテル八王子を想定している。
- ・そのほか、メイン会場とサテライト会場、駅をつなぐシャトルバスの運行、エクスカーションツアー、サイクリングイベントなどを検討していく。
- ・また、映像上映やライブ配信、飲食イベントなどとのコラボレーションを行い、まち全体でフェスティバルを盛り上げていきたいと考えている。各種プロモーションについても、広報はちおうじ・WEB サイト・SNS・市内各所への掲示・交通広告など、積極的に仕掛けていく。
- ・新宿駅におけるポスターやデジタルサイネージをはじめ、事務局内での意見交換をしているところ。あらゆる可能性を排除せず、実現を模索していく。
- ・来年度の「日本遺産フェスティバル in 桑都・八王子」については、日本遺産フェスティバルを契機に、点で実施されている事業を同時開催として面にして、全国津々浦々が集まってくる方たちを捉えて、市街地を賑わせたいと考えている。事務局はメイン会場（本部）の運営や連絡調整が主になることが想定されるためそれぞれの団体や所管課において、企画段階から主体的に対応していただきたく、お願いする。今後は部会等を活用しながら事業を進めていきたいと考えている。

質疑

【会長】

- ・各構成団体及び各委員の主体的な御提案や「こんなことはできないのか」といった御質問、御意見等はないか。
- ・各団体で自ら実施したいと考えていることがあれば、御提案願う。
- ・本案件は協議案件である。後ほどでも結構であるため、何か御意見等あれば、事務局へ御意見をいただいて今後の参考にさせていただく。

【委員】

- ・八王子に泊まりに来る人数は何名くらいか。

【事務局】

- ・宿泊客数は不明だが、メイン会場への来場者は二日間で 20,000 人程度を想定している。
- ・日本遺産認定団体である高岡市の資料には、イベントスケジュールや街全体のマップを掲

載したものがある（配布資料）。本市においても、このような資料を制作したかったが、未決定の部分があるため具体的にお示しはできない。参考イメージとしていただきたい。「東京たま未来メッセ」を中心として「八王子ユーロード」、「高尾山」、「桑都テラス」など催しが開催できる場所は数多くあると思う。フェスティバル前の気運醸成だけでなく、その後も余韻を楽しむような形でイベントを開催できればと考えている。皆様にもフェスティバル開催のタイミングに合わせられる事業があれば合わせていただき、八王子全体でフェスティバルを盛り上げていければと思っている。御協力お願いする。

【委員】

- ・お集まりいただいた皆様には、平素よりお世話になっている。
- ・季節も良い中での開催であるので、非常の多くのお客様に八王子にお越しいただけるようにPRをしたい。
- ・仮に鉄道の工事等がある場合でも、11月3～5日をしっかりと意識して取り組みたい。よろしくお願いする。

協議事項（3） 「日本遺産変更申請（構成文化財の追加）」について

【会長】

- ・協議事項（3）について事務局から説明願う。

【事務局】

- ・本協議事項は、日本遺産認定ストーリーを磨き上げ、市全体で日本遺産の活用に対する気運を高めていくために、調査や調整が進んだ文化財を構成文化財として追加することを協議するもの。
- ・現在の29の構成文化財に、追加を検討しているのは、「諏訪神社（鑑水）の文化財」。
- ・すでに構成文化財である「絹の道」及び「八木下要右衛門屋敷跡（絹の道資料館）」に関係し、鑑水商人の繁栄を実感できる有形文化財を構成文化財に追加することで、認定ストーリーの魅力をさらに高めていきたいと考えている。
- ・「絹の道」とその周辺の文化財を面的に語ることを通じて、由木地域にも日本遺産の活用への意識を高め、さらに「日本遺産フェスティバル in 桑都・八王子」の開催をきっかけとして、日本遺産の活用をより一層推進する。
- ・文化庁への申請は3月中の見込みであり、現在、関係者ならびに内部事務手続を進めているところ。

質疑

【会長】

- ・御意見、御質疑はないか。

【委員】

- ・「諏訪神社」は、市の指定文化財である。
- ・本格的な建築学の中での調査を企画していただいて、ぜひ構成文化財に追加してほしい。

【事務局】

- ・日本遺産の認定ストーリーが浸透していない地域もある。調査研究が進められるところについては積極的に行うとともに、ストーリーに追加することで日本遺産認定ストーリーを磨き上げていきたい。今回で終わりではなく、今後も進めていきたい。

【会長】

- ・日本遺産認定後のストーリーの磨き上げは、非常に重要なことと思う。
- ・ただし、構成文化財を追加するにあたっては、協議会はもとより、構成文化財保持者や議会、地元における丁寧な説明が不可欠であると考えている。きちんとした対応を事務局に要請する。

その他

【事務局】

- ・文楽の木造舞台について文化財課より報告する。

【文化財課長】

「につぼん文楽プロジェクト」からの組み立て式舞台の本市への無償譲渡について

- ・この舞台は「につぼん文楽プロジェクト」が制作をしたもの。これまで7回ほど全国各地を回る公演に活用した。通常この舞台は奈良県の倉庫に保管されているが、イベントの際には現地で組み立てをしている。
- ・本市は、無償譲渡を受けて、令和8年度内の開設を目指す八王子医療刑務所跡地の集いの拠点整備の中で、施設の中に入れて常時使用できるような使い方を考えている。和の雰囲気を感じられる空間の中で、八王子車人形をはじめとした日本遺産構成文化財にもなっている様々な伝統芸能のほか、市民活動の発表の場としても使っていただくことを期待している。
- ・現在、様々な活用方法を検討している。集いの拠点は民間事業者が行うPFI事業でもあるため、行政では考えつかないような面白い取り組み方もできるのではないかと考えている。新聞記事では結婚式や幼稚園の発表会などと書かれているが、そのような様々な取り組みができる場所として活用していきたい。ぜひご期待いただきたい。

東京都教育委員会の「子どもを笑顔にするプロジェクト」について

- ・これは、コロナ禍において子どもたちの学び・遊び・暮らし、様々な所に制約がある中で、子どもたちに少しでも笑顔になってもらおうと始めた取組に対して、東京都が補助をする制度。
- ・本市の場合、学校自らがプログラムを考える自校方式であり、また、教育長の指示を受けて日本遺産をテーマにしたプロジェクトを考えることとなっている。文化財課が企画・実施を担っている。
- ・市内 108 校ある中で、80 校近い学校から文化財課が用意した 19 のプログラムを選んでいただき執行している。年度内執行に向けて行っている。
- ・八王子車人形の体験は、(五代目) 西川古柳に御協力いただき、各学校の子どもたちに操演の体験を行っている教室である。
- ・NP0 法人八王子城跡三ッ鱗会には、兜の図柄がデザインされた 75 センチ角の折り紙を、ハサミやのりを使わず折るだけで完成させる教室を御協力いただいている。
- ・高尾山薬王院にも御協力いただいている。高尾山薬王院について学ぶ教室では、学校が高尾山薬王院に行き、僧侶の方のお話を聞き、精進料理を食べることで食べ物のありがたみを学ぶ。また、僧侶の方に学校に来ていただき、高尾山薬王院について、そして日本遺産について学ぶ機会の場を提供させていただいている。
- ・高尾山薬王院だけでも 20 数校が実施する見込み。申し上げた 3 つの教室だけでプログラム全体の 3 分の 2 を占めている。
- ・八王子芸妓に御協力いただいて、八王子芸妓に学校に来ていただき、芸妓文化や所作を学ぶ教室も行っている。
- ・今年度 3 月までの全校実施に向けて、日本遺産の PR も含めて取り組んでいく。
- ・子どもたちに笑顔になってもらうことを第一とするほか、「日本遺産フェスティバル in 桑都・八王子」の気運醸成に向けて、子どもたちの視点からも続けていくきっかけとしたいと考えている。

【事務局】

- ・日本遺産の総括評価・継続審査の進め方等について。これまで、認定後 6 年間の取り組みのあと、1 回目の総括評価・継続審査を受け、その後は 3 年ごとに総括評価・継続審査を受けることとなっていた。
- ・しかし、3 年間では期間が短く事業の進捗状況や目標の達成状況が把握しにくいという懸念があるため、1 回目の総括評価・継続審査を受け、3 年間の地域活性化計画に基づく取組を実施した後は、6 年ごとに総括評価・継続審査を受ける形とする旨、文化庁より通知があった。

【会長】

- ・今後の総括評価・継続審査の進め方について、事務局から報告があった。2回目以降の総括評価・継続審査で作成する計画期間が3年間から6年間となる。
- ・あらためて、本推進協議会が一体となって、取り組んでいけるよう委員の皆様をお願いする。
- ・最後に、大本山高尾山薬王院 33 世貫首、佐藤秀仁委員から挨拶をお願いしたい。

【委員】

- ・本年1月はお正月期間中、天候にも恵まれ、比較的多くのご来山の方々をお迎えすることが叶った。
- ・特に、この時期は空気が澄んでいるため、お山の上からの展望が非常に美しい。今日も江の島や房総半島や筑波山などを望むことが出来た。多くの人々がその展望までご堪能いただけたのではないかと思います。そういった姿を拝して感じることは、いかに文化や医療や科学が発展しても昔から唯一変わらないのは、人々が高尾山を愛したり、親しんだりする心ではないかと思います。
- ・身近な一例としては、高尾山のお山が開かれたと言われている今から 1,280 年ほど前から今日に至るまでお山にお越しにいただいている人々の心と言うものは、何ら変わりはないかと思う。
- ・今日、高尾山の時空を超えた魅力というものは、不安の多い昨今の中、人々の心の中に潤いや生きる喜びを与えてくれる、そんな場所が高尾山ではないかと思う。
- ・本年11月に行われる「日本遺産フェスティバル in 桑都・八王子」では、そういった心の部分もご来場の皆様方に感じていただける集いになるのではと期待している。
- ・3月12日には、13時より、高尾山の麓で日本遺産構成文化財の一つでもある「火渡り祭」が盛大に執り行われる予定となっている。これは、まさしく日本遺産を体感できる行事となっていると存じている。
- ・委員の皆様にはご都合がつけば、お誘いあわせの上ご来院賜りまして、日本遺産の魅力を感じていただければと思う。
- ・結びに当たって、「日本遺産フェスティバル in 桑都・八王子」が盛大に執り行われること、そして、本日ご来席の皆様が日本遺産の啓発にいよいよご発展いたるよう、ご挨拶に変えさせていただく。

【会長】

- ・各種団体においては、委員の皆様とともに日本遺産を推進してまいりたいと考えている。
- ・これにて、令和4年度第2回日本遺産「桑都物語」推進協議会総会を閉会する。

閉会